

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立内部東小学校

校長 稲垣 孝

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

この運営協議会は、内部東小学校の教育活動等に対して、地域全体で子どもを育てる体制をつくり、子どもたちの学習活動・環境の充実を図るとともに、家庭・地域の教育力を高め、さらには、地域のコミュニティの活性化を図ることを目的としています。

保護者や地域の声を反映した教育活動を進めるとともに、学校とともに子どもを育てる中心的な役割を果たします。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

全学年で地域住民・団体と連携した活動が行われた。

- 1年生 サツマイモづくり 焼き芋 竹とんぼあそび
- 2年生 リースづくり リース材料集め
- 3年生 ホタルの飼育 観察会 昔の暮らし講話
あすなろう鉄道とうつべの町の発展
- 4年生 つつじの剪定 トンボの飼育 防災体験
- 5年生 米作り(田植え、稲刈り、脱穀、米袋づくりなど)
- 6年生 戦争体験を語る会



(写真左は3年生ホタルの観察・内部地区のホタルの住処についての話)

(写真右は3年生昔の暮らし・内部地区についての話)



(写真は4年生ヤゴの観察の様子)

「学童見守り隊」による登下校の見守り活動、「はげまし隊」による樹木の剪定活動や、タイヤ遊具のペンキ塗りなどの遊具の安全整備、グリーンボランティア「森林づくり三重」を中心としたPTA保護者、児童、職員による学習の森整備作業を行った。また、クラブ活動にも地域老人会「長寿会」の方に指導していただくなどコミュニティスクール委員が中心となって地域人材を活用した取り組みが広がってきている。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

年間5回のコミュニティスクール運営協議会を開催し、さまざまな角度からの意見をいただき、教育活動に反映することができた。

第2回目には内部小・内部中と三校合同での会議を開催した。交通安全を始めとして、通学路整備事業・采女城址除草作業など内部地区全体で取り組んでいくことを確認した。三校全体で討議する場が必要であるとの意見から始まり2年目となったが、児童・生徒の情報交換や一年間の取り組みについて交流でき好評であった。

会議では、様々な団体の代表から委員が出ていることを活かした意見交換ができた。米作りやトンボやホタルの学習の取り組み・学習の森の整備に関することが話題に上がると、保護者からも毎月呼びかけて参加していることや森の材料を使用して工作に取り組んでいるなどの様子の紹介があった。小古曾地区自治会では、学年で取り組んだ米作りのわらを使用し、しめ縄づくりを開催したり、同じく「実のなる丘に鳥や蝶を」に連携し鳥の巣箱づくりが進められたりしている。

また、登下校の児童の様子、放課後の遊び方やスポーツ活動での様子を出し合うことで子どもたちの良さに気づき、地域全体で子どもたちを育てていかなければいけないことを毎回のよう確認することができた。

本年度は特に交通安全についての話題が多く取り上げられた。自転車乗用の場合のヘルメットの着用、通年工事が多いことから登下校指導の注意事項、交通事故についての対策、学校での指導の在り方についての確認等が話題となり、その後職員へも伝達し、いっそう安全意識が高められた。

毎回行われる授業参観も、ICTを活用して行われる授業展開や板書の文字のこと、校内の整とんでは、雑巾のかけ方やトイレのスリッパの並べ方に至るまでご意見をいただき、学校全体で取り組む指針となった。

3 今後に向けて

運営協議会では、学校教育活動に対して様々な意見をいただいた。

授業参観も運動会、縄跳び運動、校内書写展・図工展などいろいろな分野で取り組む時期を設定したことで、十分に参観していただいた。そのような中で、各委員の皆様は学校内外の児童や保護者、地域住民の思いや様子など、意見をたくさん出していただいた。その積み重ねがあり、学校、コミュニティスクールに参加している団体とのつながりを深めることができた。来年度も継続してコミュニティスクールの活動を通じて、教育活動をよりよくしていきたい。